

年金改革での超党派合意を期待する

8月8日に衆議院が解散された。与野党は両院合同会議の場で公的年金の在り方を議論してきたが、中間整理の前に中断となった。

両院合同会議では議論があまり進まなかった。事前の国会決議では、各党の利害を超えて真摯に議員間で議論することになっていたが、実際には各党の主張が繰り返された。会議は、冒頭に各党代表が意見を述べ、それをうけて議員間で議論する形が採られた。

少子高齢化が見込まれる中で、年金を万人にメリットがあるように改正するのは難しい。さらに、将来生まれてくる世代のことも考える必要がある。高齢な有権者が多い状況で、多数決によって年金政策を選択すれば、将来世代が不利になる懸念がある。

こういった懸念があるからこそ、党利党略を超えた検討の場が設けられたのではなかったか。スウェーデンの改革では各党の代表が基本方針をまとめ、各党はそれを支持した。党内の反発もあったが最終的には超党派合意を尊重した。日本でも、今回の選挙結果に関わらず、超党派合意に向けた真摯な取り組みを期待したい。

《目次》

- ・ (年金運用) : 世界的なイールドカーブ平坦化の意味
- ・ (年金運用) : わが国の確定拠出年金加入者の安全志向が高い理由
- ・ (年金制度) : 年金会計基準再考(2) - 即時認識の企業評価への影響